**曹洞宗大本山總持寺・ニコニコ法話　　　　　　　　　　　　　　　　　　 令和6年12月**

 「こんにちは！」という慈悲

**北海道 真光寺住職　眞如 晃人**

毎月、お参りに伺うお家には、ユウタ君という五歳の男の子がいます。

はじめて会った日、彼は私が「こんにちは」と声をかけると、頭をかかえて、「いやー、こわいー」と言って部屋を飛び出していきました。彼はどうしたわけか、「髪がないお坊さんは、自分の髪の毛を全部もっていく人」と誤解していたからです。

お家の方がすぐに誤解をといてくれました。でも、私がユウタ君に話しかけようとすると、毎回、「いやー、こわいー」の繰り返しです。彼の叫び声を何度も、何ヶ月も会う度に聞き、その逃げる後ろ姿を見送っていると、私も段々、寂しい気持ちになってきました。

あるお参りの日、いつものように頭を抱えて逃げていくユウタ君。そんな様子を見かねたお母さんが、隣の部屋に隠れているユウタ君と話しているのがきこえてきました。

「ユウタ君、もしもお友達や他の人に、嫌とか怖いとかずっと言われたらどんな気持ちになるかな？お坊さんもユウタ君にそうやって言われ続けて、どんな気持ちかな？」

こっそり隣の部屋をのぞきこむと、ぎゅっと眉にしわをよせて悩んでいるユウタ君が見えました。その次の月、ユウタ君は姿を見せませんでした。そして、二ヶ月後のお参りの日です。

私が「こんにちは。」と部屋に入ると、部屋の真ん中には顔を真っ赤にしてユウタ君が立っています。よく見ると、両手に力が入って手がぶるぶると震えています。「どうしたのかな？」と思い、私はユウタ君としばらく見つめ合ってしまいました。すると突然、「こんにちは！」とユウタ君が元気いっぱいな声で挨拶をしてくれたのです。

私の挨拶に、挨拶をかえしてくれた。たったそれだけ。でも、私にとってそれは、とても心があたたかくなる「こんにちは」の挨拶でした。

お母さんと話した日、自分がお坊さんを、悲しい、つらい気持ちにさせていると気づいて、ユウタ君自身、嫌な気持ちになったのだそうです。それなら、まだ怖いけど、きちんと挨拶をかえしてみよう。そう思い、でた言葉があの「こんにちは！」だったとのことでした。

「挨拶してみてどうだった？」私がたずねると、ユウタ君は、「ちょっと恥ずかしかったけど、嫌な気持ちがなくなって、うまく言えないけど楽な気持ち。」と笑顔で教えてくれました。

　相手を想い、苦手なことを苦労しながら頑張ってみる。五歳の男の子の元気一杯な「こんにちは」、私はこの元気な「慈悲」の行いで、いつのまにか心が楽な気持ちになっていることに気がつきました。